

巻頭言

技術の多様性

Diversity of Technologies

執行役員
開発本部副本部長

北島 修

Osamu Kitajima



建設機械というものをあらためて見渡すと、多様な技術の集まりであると感じます。

機械、油圧、電気・電子、制御、材料、環境・エネルギー、人間工学、通信技術……。それぞれの技術が複雑につながり合い、一台の機械として価値を生み出しています。私たち技術者は、日々その中心で仕事をしているのだと思います。振り返れば、私自身も長年設計者として開発に携わり、こうした技術の重なり合いのなかで最適解を探し続けてきました。

コマツの新中期経営計画では、重点活動の一つとして「イノベーションによる価値共創」が掲げられています。そのなかで、カーボンニュートラル・自動化・遠隔化といった技術は、コマツの成長を支える重要な柱と位置付けられています。これらは単なる技術開発ではなく、建設機械の価値をどのように進化させるのかというイノベーションそのものだと思います。

カーボンニュートラルは、環境規制への対応にとどまらず、エネルギーをどう使い、無駄をどう減らし、限られた資源をどう活かすかという、本質的な問いです。国やエネルギー事情が異なっても、「より効率的で、より無駄の少ない機械をつくる」という方向性は共通しています。自動化や遠隔化についても、人の作業をどう支え、安全で持続可能な形にしていくのかという点で、世界共通の課題と言えます。

一方で、すべての市場が同じ技術や同じ解決策を求めているわけではありません。先進国では環境対応や高度な機能が重視される一方、新興国ではシンプルで壊れにくく、長く使える機械が求められます。この違いは課題ではなくチャンスです。多様な要求があるからこそ、技術の引き出しが活きてきます。

技術の多様性とは最新技術を多く持つことだけではありません。成熟した技術と新しい技術を、「この現場、このお客さまにとって何が最適か」という視点で選び、組み合わせることが重要です。その答えは、現場やお客さまとの対話のなかで見えてきます。実際に、私もインドネシアでバイオ燃料の高騰により急速に電動化が進む現場を目の当たりにし、我々は何ができるか、何をすべきかを更に考えるようになりました。

コマツはこれまで、世界中の現場で技術を鍛え、試行錯誤により技術を積み上げてきました。その蓄積は、どの拠点にとっても共通の財産です。今後、開発は更にグローバルに広がり、異なる文化やバックグラウンドを持つ人々と協力する場面が増えていきます。私自身、北米、中国の駐在を通しその多様性を肌で感じました。今その多様性を強みに変えられるかは、私達一人ひとりの姿勢にかかっています。

現場を知り、技術を磨き、国や分野を越えて技術をつなげて考える。その先に、世界中の現場で価値を発揮する、コマツらしいイノベーションが生まれるはず。そしてデータ活用や AI といった新しい技術も含め、数ある選択肢の一つとして冷静に見極めながら他の技術と組み合わせ、現場の価値につなげていくことで、コマツはお客さまにとって真のソリューションパートナーであり続けることができると考えます。